

公表

## 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ハグ・ハグ彦根		
○保護者評価実施期間	2026年 1月21日		～ 2026年 2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年 1月30日		～ 2026年 2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人の個性や特性に応じた対応を心掛け、状況に応じてしっかりとコミュニケーションを取る時間を大切にしている。	・月ごとの季節の行事の取り組みによる感情形成。 ・コミュニケーションの質を上げるための時間確保。 ・視覚・聴覚・体感など特性に合う伝え方と関わり。	行事や活動を充実し、子どもに寄り添い成長を支援するよう心掛けます。
2	部屋が広く遊びや学習専用の部屋があり、児童の自主性が尊重されている。	・空間を構造化して片付け、自己責任、社会性等の成長を促している。 ・やってはいけないことや危険なことなど、児童にわかりやすく伝え、ルールや規範意識を育てている。	子供たちの自己決定や自己発信できる力を成長させ、生きる力を育み見守っていく。
3	休日にはお出かけを計画し、社会勉強の機会を作っている。外出活動で色々な経験をさせ、視野を広げることができる。	宿題やおやつ、活動、自由遊びなどスケジュールに基づいて活動をして、ルーティンを身に付けさせる。	お出かけや活動・遊びなどに対して、個別支援計画書の支援内容との運動を更に強める
4	毎日の打ち合わせが行われ、職員間の情報の共有や支援方針の統一がなされている	職員間で毎日の前日の振り返りを行い、困ったことや心配なこと、するとよいことなど意見を交換して、次回の活動を安心安全に行うよう日々改善している。	今後も振り返りをして、日々よりよく変えていけるよう心がけます。
5	保護者との連絡を緊密にし、相談には早急に対応できる体制がある。	送迎時や通信機器（LINE、電話）、面談など保護者との連絡や相談をこまめに行い、より良い支援を行えるよう生かしている。	保護者の意見をさらに取り入れられるよう、モニタリングの強化や対話の機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間のかかわりが少ない。	保護者会など、保護者同士で関われる機会が少ない。	夏祭り等の季節ごとのイベントの活用や保護者会の開催。
2	地域交流がない。	地域と関われる機会が少ない。	夏祭りなどのイベントの開催、自治会・町内会を活用した地域行事などの参加、また児童館との連携で小中学生との交流の場をつくるなどしていく。
3	事業の実施地域が広範囲のため、送迎などで十分な対応ができない場合がある。	事業の実施地域が広範囲のため。	利用回数の見直しや曜日変更など検討し送迎ルートの最適化を図る。